

「21世紀に向けた明るいまちづくり」に協力要請 横芝町新年交歓会

穏やかな日和りに恵まれた1月7日、新春恒例の新年交歓会が町文化会館で開かれました。

この交歓会は、町内の要職にある方々や名士の方が一堂に会し、今年一年の抱負やこれからの町づくりについて語りあおうと行なわれたもので、約160名のみなさんが出席。席上、あいさつに立った實川町長は、保健福祉センター事業や都市計画事業の推進、中学校建設事業の推進など、平成11年度の重要施策などを中心に話し「厳しい財政状況の中、二十一世紀に向けた明るいまちづくりを進めるためには、行政と町民のみなさんが一体となって取り組んでいくのが重要なので協力してほしい」と理解と協力を求めました。

来賓祝辞の後、前町長の佐瀬哲司さんの発声によって乾杯。出席者のみなさんは、新年の酒を呑み交わしながら今後のまちづくりなどについて意見交換をしていました。

賀横芝町新



佐瀬前町長の発声で乾杯
(左は伊藤議長、右は實川町長)

1月16日(土)、町文化会館で伊能忠敬研究会代表理事の渡辺一郎先生による「横芝と伊能忠敬」と題した講演会が開催され、忠敬に関心を寄せる町内外の約100名のみなさんが熱心に受講しました。この講演会は、今から約200年前に、日本中の海岸線を歩き正確な日本地図を作ったことで知られる郷土の偉人「伊能忠敬」と横芝町とのつながりを知ってもらおうと行なわれたもので、講師の渡辺先生は「忠敬は九十九里で生まれ、11歳から18歳までの多感な少年期を横芝で過ごした。その後、佐原、江戸へと出ていったが、大事な時期を育てたのは横芝だった」と当町と忠敬との深いつながりを説明しました。

「江戸博」や「伊能ウォーク」、「劇画・映画」と今、静かな伊能忠敬ブームとなっていますが、2年間をかけて全国を歩く「平成の伊能忠敬・ニッポンを歩こう」の一行が、2月12日(金)に当町の海岸線を歩くことになっています。「伊能忠敬」に興味をお持ちのみなさん、ぜひ参加してみてください。



横芝は忠敬が少年期を過ごした思い出の地

数え百歳、伊藤いねさん 知事が訪問し、長寿を祝う

今年で数え100歳となった伊藤いねさん(上町4)宅を1月6日、沼田武知事と實川町長が訪問し、お祝いの品を贈り長寿を祝いました。

いねさんは明治33年1月13日生まれで満99歳。沼田知事から祝詞と「栄寿」と記した自筆の色紙が贈られ、紫色のはんてんを着せてもらいました。この日は、家族や親戚約20人が集まり喜びを共にしていました。

四世代七人と暮らし、天気の良い日は自宅近くのふれあい坂田池公園を友人と散歩。一日六千歩を目標に健康維持に努めているいねさん。

いつまでもお元気でお過ごしください。

文化会館で伊能忠敬に関する講演会



横芝町と忠敬との深いつながりを話す渡辺先生